

令和 8 年 6 月 2 9 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立葉鹿小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成 1 5 年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

○計画通り実施できている

- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

○実施している

- ・実施していない

(3) 自校における評価

- ・発達段階に応じて学習の場面設定を、身の回りのことから、自分たちの住む町や市、日本や海外等、意図的・計画的に行う中で、既習内容を活用しながら、他者の話を聞いたり、自分の思いを伝えたりする能力が培われてきている。
- ・第 1 学年から継続して、ティーチャーズトークや絵本の読み聞かせを聞くこと、歌を歌うこと、様々なゲームに参加することやキーフレーズや習った単語を使って思いを伝え合う等の活動を経験することが、英語に慣れ親しむことにつながっている。
- ・他教科との関連も踏まえながら、外国語や外国の文化についても意図的に触れさせることが、児童の視野を広げ、他者を理解することや他国の文化への興味・関心を引き出すことにつながっている。
- ・タブレットを用いてプレゼンを行い、自分の思いを伝えることができた。
- ・5, 6 年生対象の英語チャレンジ DAY において、数多くのブースを回り複数の A L T、E A A とコミュニケーションを取ることで、新鮮な気持ちで楽しく既習事項を活用することができた。
- ・パフォーマンステストを学期に数回実施した。児童が A L T へ質問をしたり A L T

の質問に答えたり、更に聞いてみたいことをどのように伝えたらよいか自分で調べ、質問をするなどした。定型文のやり取りだけではなく、発展的なやり取りにも挑戦できた。

- ・授業の時間以外にも、休み時間や清掃の時間などに、A L T、E A Aの先生に児童にかかわってもらうことで、英語を苦手と感じている児童の英語に対する抵抗感も軽減されている。

(4) 学校関係者による評価

<児童>

- ・英語を使ってやるゲームが楽しい。
- ・英語が話せるようになったり、英語で友達と思いを伝え合ったりすることが楽しい。
- ・英語で話したことが友達に分かってもらえるとうれしい。
- ・英語でプレゼンを行い、だんだん英語ができるようになったと自信が出てきた。
- ・A L TやE A Aに英語を教えてもらうことで、分からないことが分かるようになるとうれしい。
- ・英語チャレンジ DAY を通して、英語にさらに自信がもてるようになった。

<保護者>

- ・1年生から英会話学習を行うことで、英語を使って他者とのコミュニケーションを図ろうとする気持ちが育っている。
- ・英語を学ぶ中で、外国語や外国の文化に触れ、興味・関心が高まっている。
- ・授業で行うプレゼンの練習をする児童の姿を見て、早くから英語に触れる機会があることはよいことだと感じている。
- ・これからも、英語を使うことに楽しさや興味をもってもらいたい。
- ・英語チャレンジ DAY に、子供たちも楽しく取り組めたようである。

3. 実施の効果及び課題

〈効果〉 第1学年から計画的・継続的に、様々な活動を取り入れて、英会話学習を積み重ねてきたことで、児童は、既習内容を活かしながら、自信をもって英語を話したり、聞いたりすることができている。

〈課題〉 他者とのコミュニケーションを図ること自体の楽しさや充実感を一層味わわせるため、主に「話すこと」や「聞くこと」の活動の工夫改善を行っていきたい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・今後も、現実味のある場面設定や、児童の興味・関心を引き出すことのできる活動を積極的に継続して取り入れていく。